

出水期への備え “もしも”の時あなたは大丈夫？



昨年10月の台風21号は、浸水や土砂崩れなど、市内に大きな被害をもたらした

本市では平成25、26、29年と相次いで浸水や土砂崩れなどに見舞われました。6、10月は、雨や台風などで川が増水しやすい出水期。日ごろから防災意識を高め、災害に備えましょう。

情報収集手段の確認を

緊急時の安全確保の鍵は、正確な情報の収集。いつ起こるか分からない水害や土砂災害に備え、日ごろから情報の入手方法を確認しておくことが大切です。

市は、避難情報等を▽防災行政無線▽市公式ホームページ▽あやべーの▽FMいかる▽車両広報 などさまざまな方法で提供しています。被災の状況によっては利用できないものがあるかもしれません。複数の手段を確保しておきましょう。

この機会に、市が配信するメールマガジン「あやべー」の登録やYahoo!防災速報アプリのダウンロードをお

すすめします。また、ラジオは災害時の情報源として、重要性が再認識されています。手元のラジオの周波数を、FMいかる76.3MHzに合わせましょう。

自助・共助で身を守る

大規模災害時には、国・府・市による「公助」がすぐには行き届きません。被害を最小限に食い止めるには、自分で身を守る「自助」とお互いに助け合う「共助」が不可欠です。家庭や地域で日ごろから▽非常持ち出し品の準備▽危険箇所や避難経路の確認▽地域の防災訓練への参加▽要支援者の確認 などに取り組む、災害に強いまちをつくりましょう。

登録・ダウンロードはこちらから



あやべー



Yahoo! 防災速報



由良川水系の大規模演習

市は5月12日、国土交通省と府、近隣市町など約50団体とともに、福知山市の由良川河川敷で「平成30年度由良川水系総合水防演習」を行いました。由良川水系で行われる大規模な演習は24年ぶり。参加者1000人のうち、本市からは市消防団やエフエムあやべなど5団体の約90人が参加しました。



演習は、台風による大雨で由良川堤防が決壊した場合の最大規模の洪水発生を想定し、写真1ポートを使った救助訓練 2京都市消防局のヘリコプターを使った救助訓練 3医療機関等によるトリアージと応急処置 4FMいかるの緊急放送による情報伝達訓練 5由良川沿いの企業として積土の工を訓練する日東精工の社員 6昨年度導入した排水ポンプ車による緊急排水訓練 7土砂に埋まった車両から救助訓練を行う市消防本部 8堤防が崩れるのを防ぐ「木流し工」を実践した市消防団

知って安心! 防災知識



元府立高校地学教員で観音寺自主防災会長の小滝篤夫さん（福知山市）が講演

市自主防災組織等ネットワーク会議（会長、川端勇夫・市自治会連合会長）は5月16日、総会を開催しました。総会後の研修会では、地域で助け合う関係づくりの大切さや由良川周辺の水害の特徴、危険な雨量の目安などについて講演がありました。

① 白い雨に注意!

時間雨量50mm以上の雨が降ると土石流が起こる可能性が高まります。目で見て、白い雨が降っていると感じるくらいが、50mmの雨量です。

② 土地の歴史を知ろう

「土石流でできた扇状地は水害を受けやすい」などの情報は、防災に役立ちます。住んでいる土地の成り立ちや地形、過去の被害などを知ることが大切です。